

令和4年度 北海道清里高等学校 学校評価 総括

1 本年度の重点目標

1 〈社会で生きる実践的な力の育成〉

確かな学力を育成するとともに、望ましい勤労観・職業観を育成・確立し、変化の激しい時代を生き抜き、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を育む教育を推進する。

2 〈豊かな心と健やかな体の育成〉

思いやりを持ち、美しいものに感動する豊かな人間性や、自律心・判断力・責任感等を育むとともに、自己・他人・社会・自然環境や「ふるさと北海道」との関係性を認識し、関わりやつながりを尊重することができる心身を育む教育を推進する。

3 〈地域とともにある学校づくり〉

家庭や地域など社会に幅広い教育機能との連携を重視した教育活動や学校運営を推進する。

4 〈信頼される学校づくり〉

教職員の服務規律の保持の徹底を図るとともに、教職員一人一人の資質・能力の維持・向上を図る研修等を推進する。

5 〈働きがいのある組織体制づくり〉

全職員の協働意識と経営参画意識に基づいた活力ある教育活動とその基盤となる「働き方改革」と組織づくりを推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営・組織運営	○ スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを踏まえ、学校魅力化プラン（ユネスコスクール型体験学習、人権教育、T-base連携進学サポート活動）の充実を図ることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、地域に根差した学校として、学校の魅力化を一層進め、地域と共にある学校づくりの推進を期待する。
改善方策	○ 生徒一人ひとりに対応したキャリア教育（進路選択、進学指導）の取組の充実 ○ 教科横断的な体験学習をととした探究活動の充実 ○ 多様な生徒に対応した学習環境支援及び学びの保障の充実	
教育課程・学習指導	○ 新学習指導要領に資する校内研修を充実させ、観点別評価について共通認識を図ることができた。 ○ ICTを活用した授業改善について、各教科での取組を他教科と情報共有し、工夫改善を図ることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、ICTを活用し生徒一人ひとりに対応した授業改善を期待する。 ○ 海外姉妹校との交流再会に向けて準備を進め、実現することを期待する。
改善方策	○ 生徒一人ひとりが学習へのやる気を涵養するための観点別評価の改善・充実 ○ 教科横断的に地域課題を発見し、課題解決に向けた探究活動の工夫・改善 ○ ICTを活用した海外等のオンライン交流授業や一人一台端末を活用した授業の充実	
生徒指導	○ コミュニケーションプログラムの活用等により、生徒指導事故及びいじめの件数が0件であった。 ○ 特別な配慮を必要とする生徒が安心して学校生活に取り組むことができ、多様性を育む人権教育の推進を図ることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、生徒のより良い人間関係づくりに向けた取組の一層の充実を期待する。 ○ 他者を尊重することができる優しい気持ちの涵養を一層図ってほしい。
改善方策	○ 生徒が主体的にいじめの未然防止等の啓蒙活動に取り組む体制の整備 ○ 多様な人を認め合う資質を養うための講話や体験学習の充実	
進路指導	○ 多様な進路に対応した取組の充実を図ることができた。 ○ 難関大学等を目指す生徒への3年間を見通したキャリア教育の充実が求められる。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、将来的に地元目に向けてくれる取組の充実を期待する。 ○ 地元で難関大学を目指す生徒の支援の充実を期待する。
改善方策	○ 地元企業と学校が連携した体験学習や講話等の取組の充実 ○ 北海道遠隔配信センター（T-base）と連携した進路指導の充実	

健康・安全 ・環境美化	○ 特別な配慮を必要とする生徒のための環境改善及び専門家等の連携を強化することができた。	○ 概ね適正な自己評価結果である。
地域との連携	○ コロナ禍においても、可能な限り地域と連携した取組を行うことができた。 ○ 知床地域のユネスコスクールとの意見交換会等とおして、環境への意識を高めることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、地元の小学校、中学校や知床地域のユネスコスクールと連携した学習活動の一層の充実を期待する。
改善方策	○ 地域の行事と連携した活動をととした探究活動の充実 ○ コロナ禍後の異校種との連携をととした主体的な学習活動の充実	
資質能力の向上	○ 教員自らが必要なテーマに取り組む校内研修の工夫・改善に努めることができた。 ○ 研修等により初任段階に該当する若手教員のための業務遂行スキル向上を図ることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、一層のキャリア教育に資する学習活動の取組の充実に期待する。
改善方策	○ 全教員が積極的に意見交換できる校内研修や会議の充実及び外部の研修への参加の推進	
施設・設備	○ 3年間のコロナ禍において、ICT教育環境等の充実やオンライン等を活用した国際交流活動の充実を図ることができた。 ○ インクルーシブ教育に係る環境整備の充実を図ることができた。	○ 概ね適正な自己評価結果であるが、ICTを活用した教育活動及び海外姉妹町の交流の充実を期待する。
改善方策	○ わかりやすい授業に資するICT機器の活用方法の工夫・改善 ○ 機器の管理について管理簿の活用及び定期点検の徹底	
公表方法	○ 学校ウェブページへの掲載 ○ 学校評議員会、PTA役員会での報告	